

# 第1回愛媛県立今治病院老朽化対策基本計画策定委員会 次第

日時：令和5年6月12日（月）  
18：00～20：00（予定）  
場所：愛媛大学医学部附属病院多目的棟1階 会議室1

## 1 開 会

## 2 公営企業管理者あいさつ

## 3 委員の紹介

## 4 議 事

（1）副委員長の指名

（2）今後のスケジュール【報告】・・・・・・・・・・資料1

（3）今治圏域の医療の現状及び将来予測【報告】・・・資料2

（4）県立今治病院が今後担うべき医療機能・役割

及び規模の考え方 外【協議】

## 5 その他

## 6 閉 会

愛媛県立今治病院老朽化対策基本計画策定委員会 委員名簿

	所属等	氏名
委員長	県公営企業管理者	山口 真司
副委員長	愛媛大学医学部附属病院長	杉山 隆
委員	今治市医師会長	木本 眞
委員	県今治保健所長	岡田 克俊
委員	今治市健康福祉部長	長谷部 孝一
委員	上島町健康福祉部長	今井 稔
委員	県立今治病院長	川上 秀生

今後のスケジュール（6月12日時点）

6月12日	<p>第1回委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今治圏域の医療需給の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口及び入院動向</li> <li>・医療提供体制の状況</li> <li>・患者数の推計</li> </ul> </li> <li>○県立今治病院の現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現病院の概況</li> <li>・現病院の主な機能・役割</li> <li>・患者数の推移</li> <li>・経営状況</li> </ul> </li> <li>○医療機関からの声</li> <li>○県立今治病院が今後担うべき医療機能・役割及び規模の考え方</li> </ul>
8月下旬 ～9月上旬	<p>第2回委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県立今治病院の医療機能及び診療規模</li> </ul>
11月下旬	<p>第3回委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化対策の方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備方針、整備手法</li> <li>・事業費、スケジュール</li> </ul> </li> </ul>

※必要に応じて第4回委員会を開催（書面開催も含めて）

資料2

# 愛媛県立今治病院 老朽化対策基本計画策定委員会

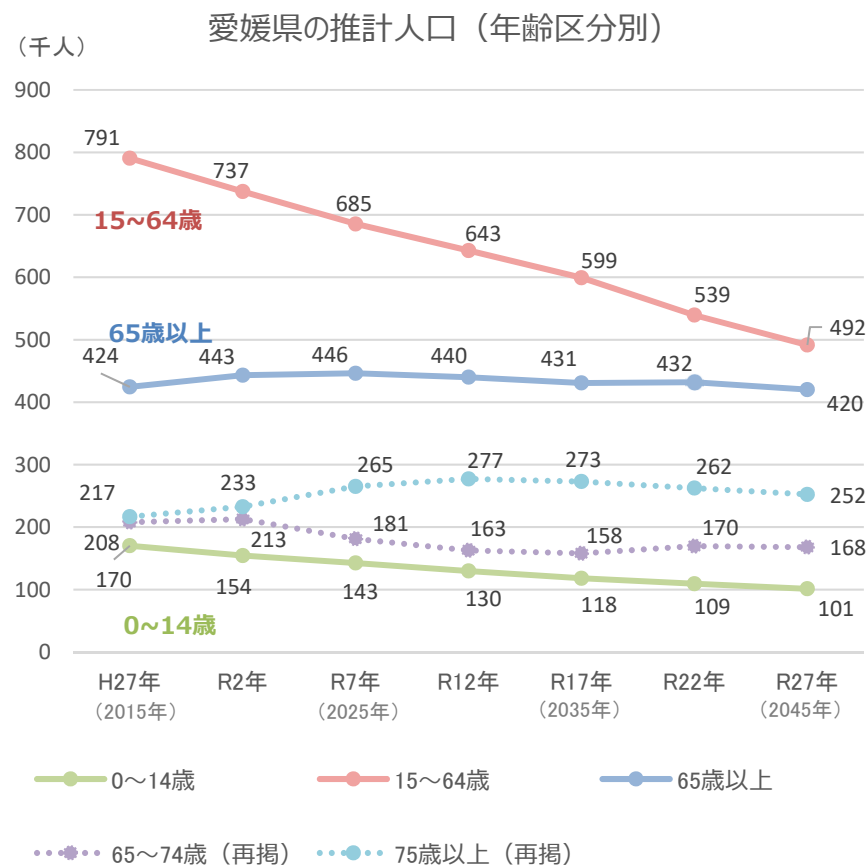
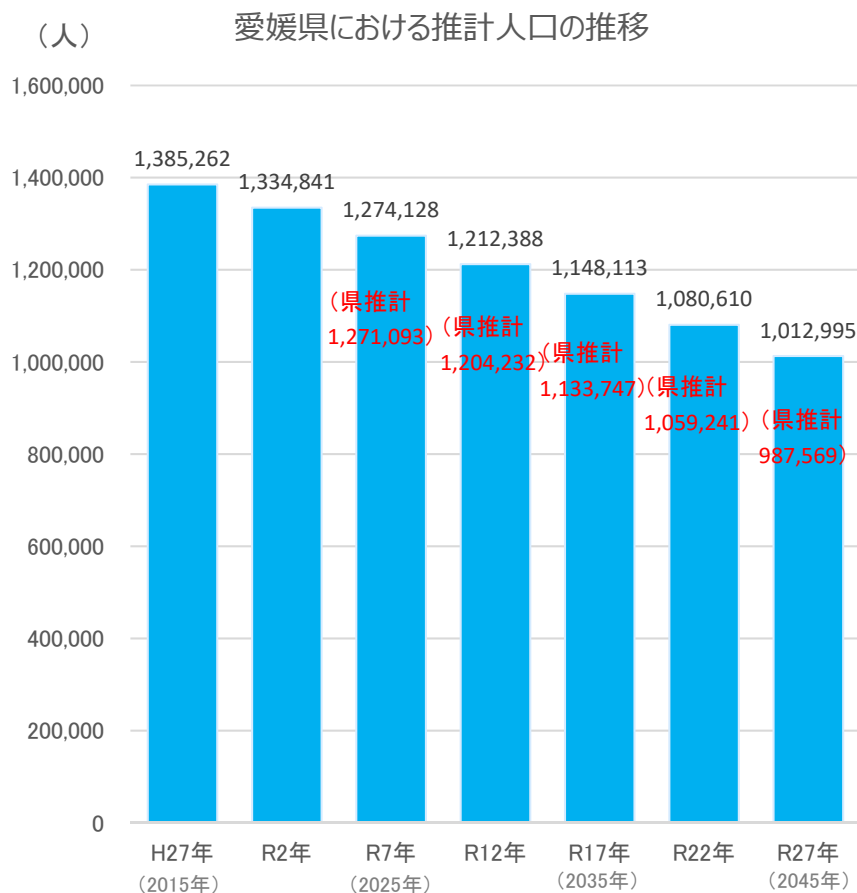


第1回(令和5年6月12日)

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 1) 人口及び入院動向

- 愛媛県の人口は、R2年からR27年に24.1%減少。  
 ※愛媛県独自の推計では、R2年からR27年に26.0%減少。
- 65歳以上人口もR7年以降減少し、高齢化率はR27年には41.5%に達する。

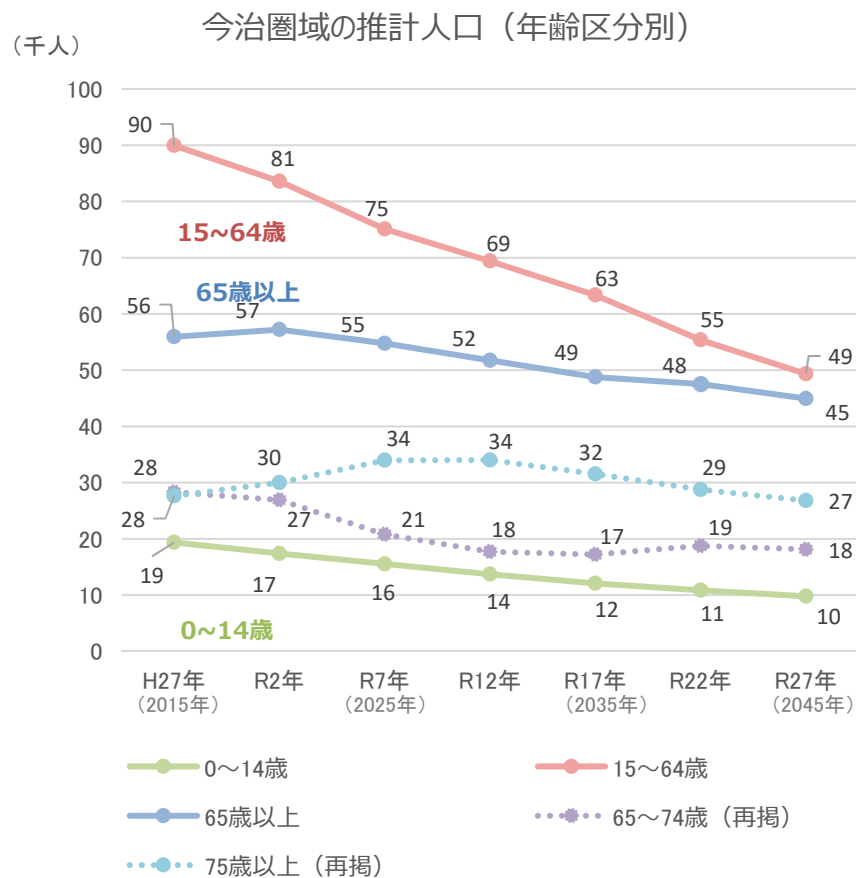
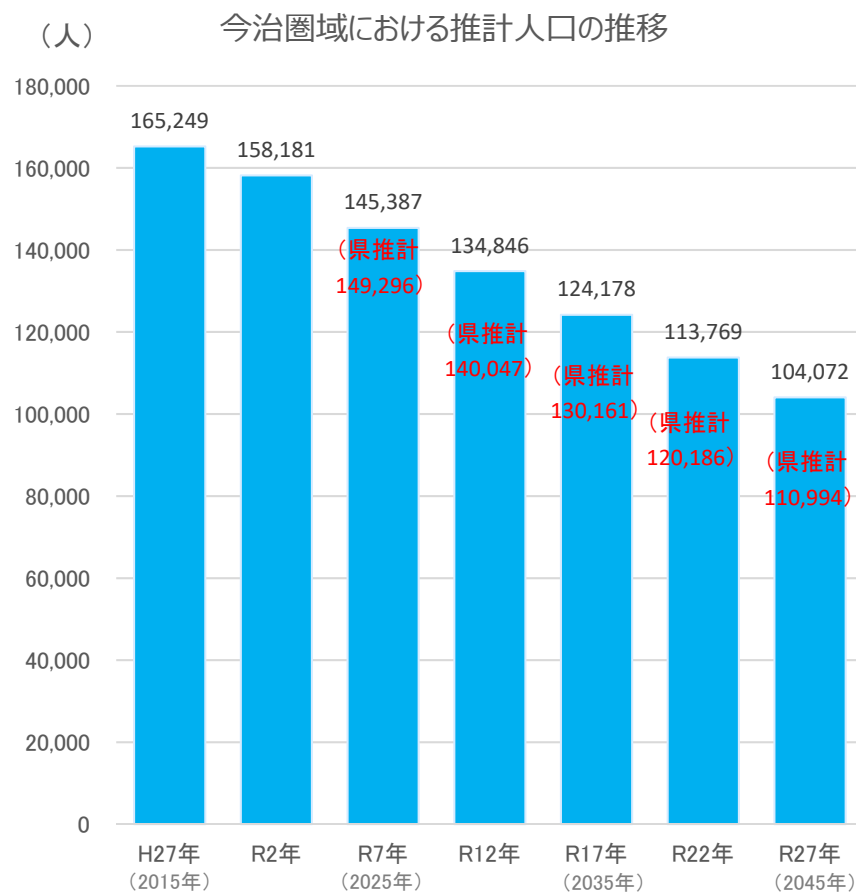


出典：国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」  
 (平成27年、令和2年は実績。以降は平成27年国勢調査に基づく推計、平成30年12月公表)

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 1) 人口及び入院動向

- 今治圏域の人口は、R2年からR27年に34.2%減少。  
 ※愛媛県独自の推計では、R2年からR27年に29.8%減少。
- 65歳以上人口はR2年以降減少し、高齢化率はR27年には43.2%に達する。

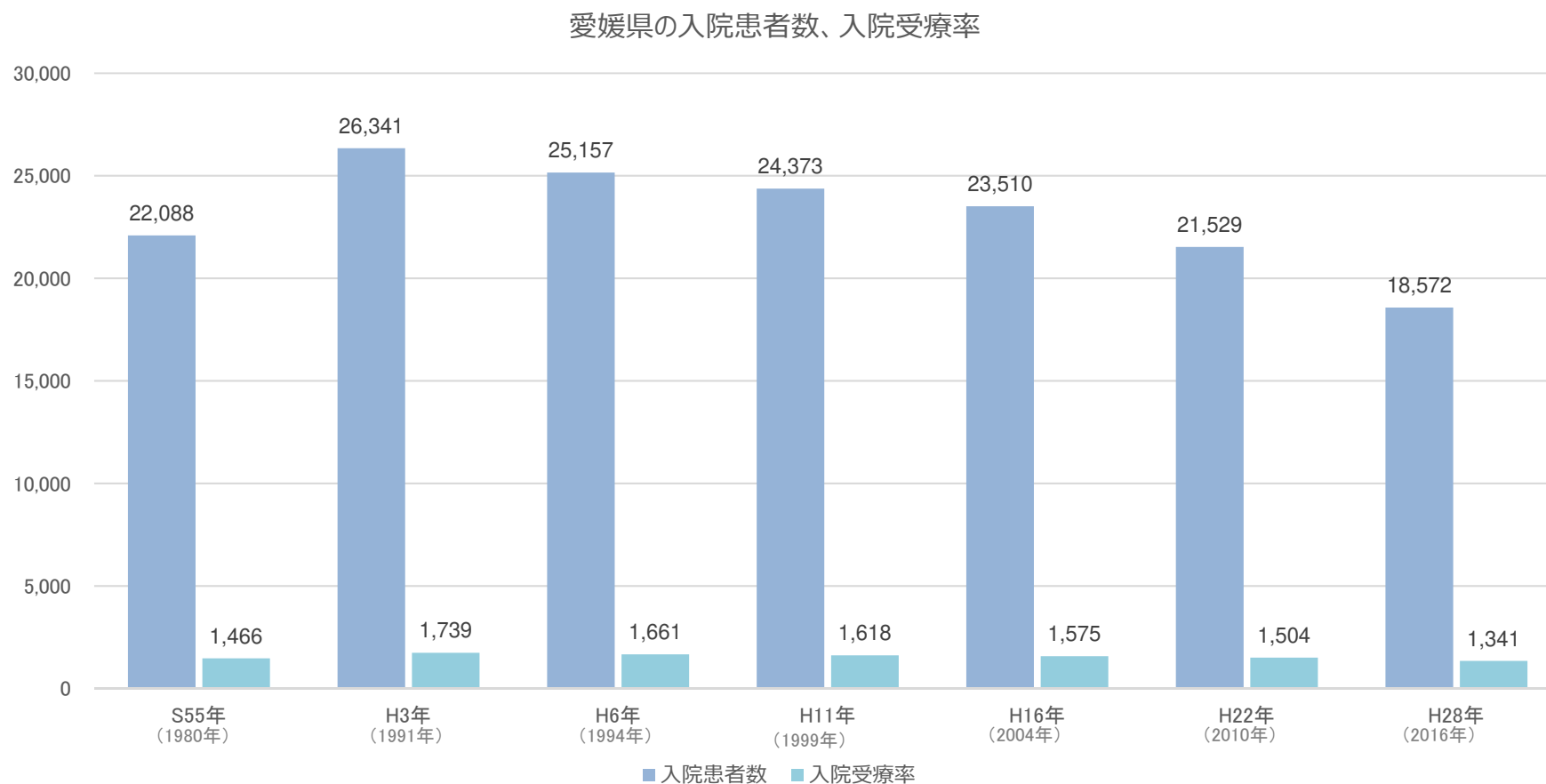


出典：国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」  
 [平成27年、令和2年は実績。以降は平成27年国勢調査に基づく推計、平成30年12月公表]

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 1) 人口及び入院動向

- 愛媛県の入院患者数はH3年以降減少。H28年にはH3年よりも29.5%減少。
- H28年の入院受療率（人口10万人に対する患者数）は、H3年に比べ22.9%の低下。



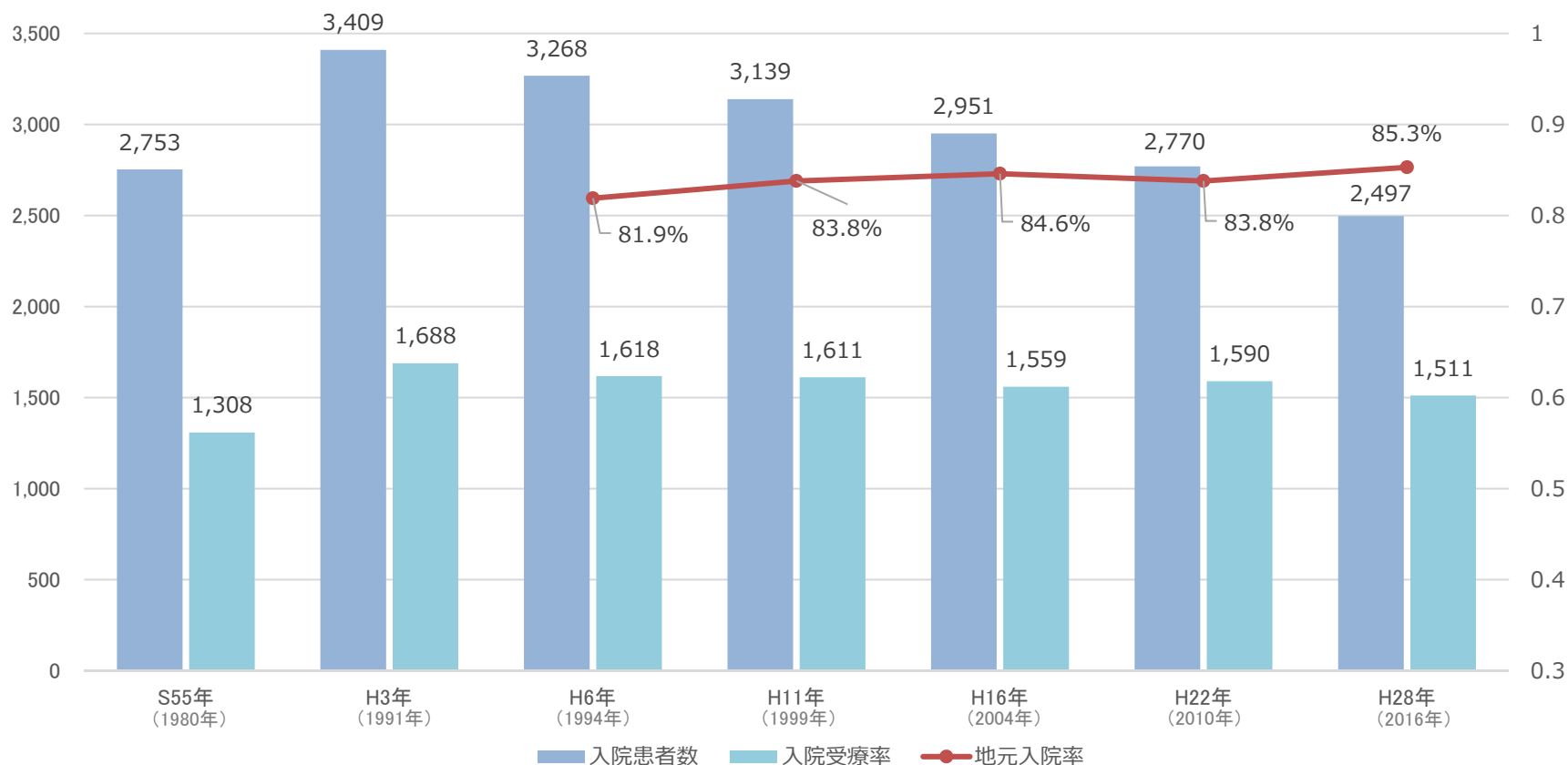
出典：愛媛県入院患者調査（調査年の10月最初の営業日時点で調査（H28年調査は10/3（月）））

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 1) 人口及び入院動向

- 今治圏域在住者の入院患者数もH3年以降減少。  
H28年にはH3年よりも26.8%減少。
- H28年の入院受療率（人口10万人に対する患者数）は、H3年に比べ10.5%の低下にとどまり、全県の1,341人よりも高い。

今治圏域の入院患者数、入院受療率、地元入院率



出典：愛媛県入院患者調査（調査年の10月最初の営業日時点で調査（H28年調査は10/3（月）））



# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 2) 医療提供体制の状況

### ○今治圏域の主な医療機関

二次救急輪番病院及び一般病床数（高度急性期+急性期）100床以上の病院を示す。

名称	一般病床数（床）	二次救急輪番病院	災害拠点病院	地域周産期母子医療センター	へき地医療拠点病院	第二種感染症指定病院	地域がん診療連携拠点病院
県立今治病院	270	○	○	○	○	-	-
済生会今治病院	191	○	-	-	-	-	○
放射線第一病院	110	-	-	-	-	-	-
瀬戸内海病院	97	○	-	-	-	-	-
今治第一病院	90	○	-	-	-	-	-
白石病院	60	○	-	-	-	-	-
今治市医師会市民病院	51	○	-	-	-	○（4床）	-
木原病院	49	○	-	-	-	-	-
広瀬病院	30	○	-	-	-	-	-

出典：四国厚生支局「届出受理医療機関名簿」（令和5年5月1日現在）、「今治病院あり方検討プロジェクトチーム報告書」より作成

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 2) 医療提供体制の状況

### ○今治圏域における医療機関、医師数等の動向

病院数：平成29年から令和元年にかけて2病院減少。

一般診療所数：横ばい。(H21年119→R3年119)

医師数：横ばいから増加傾向(H20年308人→H24年305人→H30年319人)も、H30年の人口10万人対医師数は198.6人で、全国(246.7人)・愛媛県(269.2人)の平均と比べ、少ない。

区分	H21年 (2009)	H23年 (2011)	H25年 (2013)	H27年 (2015)	H29年 (2017)	R元年 (2019)	R3年 (2021)
病院数	30	30	30	30	30	28	28
一般診療所数	119	118	119	114	119	119	119

出典：厚生労働省「医療施設調査」

(単位：人)

区分	H20年 (2008)	H22年 (2010)	H24年 (2012)	H26年 (2014)	H28年 (2016)	H30年 (2018)
医師数	308	306	305	312	310	319
人口10万人対医師数	173.4	175.7	178.4	186.7	189.0	198.6
参考：愛媛県	234.3	235.8	244.1	254.2	262.5	269.2
参考：全国	212.9	219.0	226.5	233.6	240.1	246.7

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 3) 患者数の推計

○厚労省「2017年度患者調査」及び社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）を基に独自推計した患者数（人/日）

・入院患者数：令和7年以降減少。

H27年2,309人 → R7年2,367人 → R27年1,851人（R7年比21.8%減）

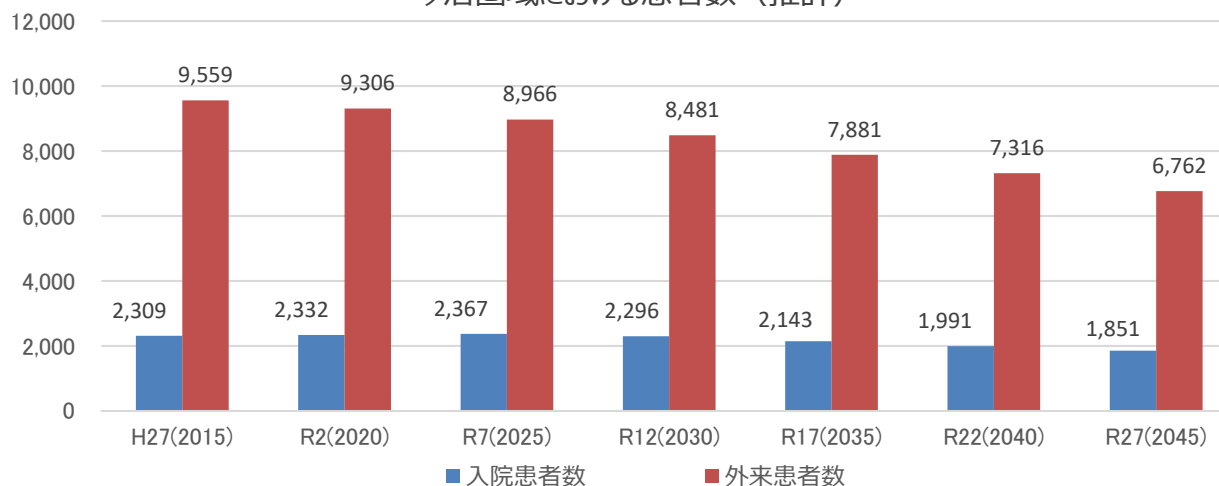
・外来患者数：徐々に減少。

H27年9,559人 → R12年8,481人 → R27年6,762人（H27年比29.3%減）

（単位：人）

区分	H27年 (2015)	R2年 (2020)	R7年 (2025)	R12年 (2030)	R17年 (2035)	R22年 (2040)	R27年 (2045)
入院患者数	2,309	2,332	2,367	2,296	2,143	1,991	1,851
外来患者数	9,559	9,306	8,966	8,481	7,881	7,316	6,762

今治圏域における患者数（推計）



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、厚生労働省「2017年度患者調査」を参考に作成

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 3) 患者数の推計

### ○入院患者数推計における主な疾患別の内訳（人/日）

ほぼすべての疾患でR7年までにピークを迎える。

総数 : R7年以降減少。(R27年は対R7年比で21.8%減)

新生物 : 顕著な減少傾向。(R27年は対H27年比で23.8%減)

循環器系、損傷中毒 : 令和7年まで増加、以降は減少に転ず。

(R7年は対H27年比循環器系9.9%増、損傷中毒5.4%増)

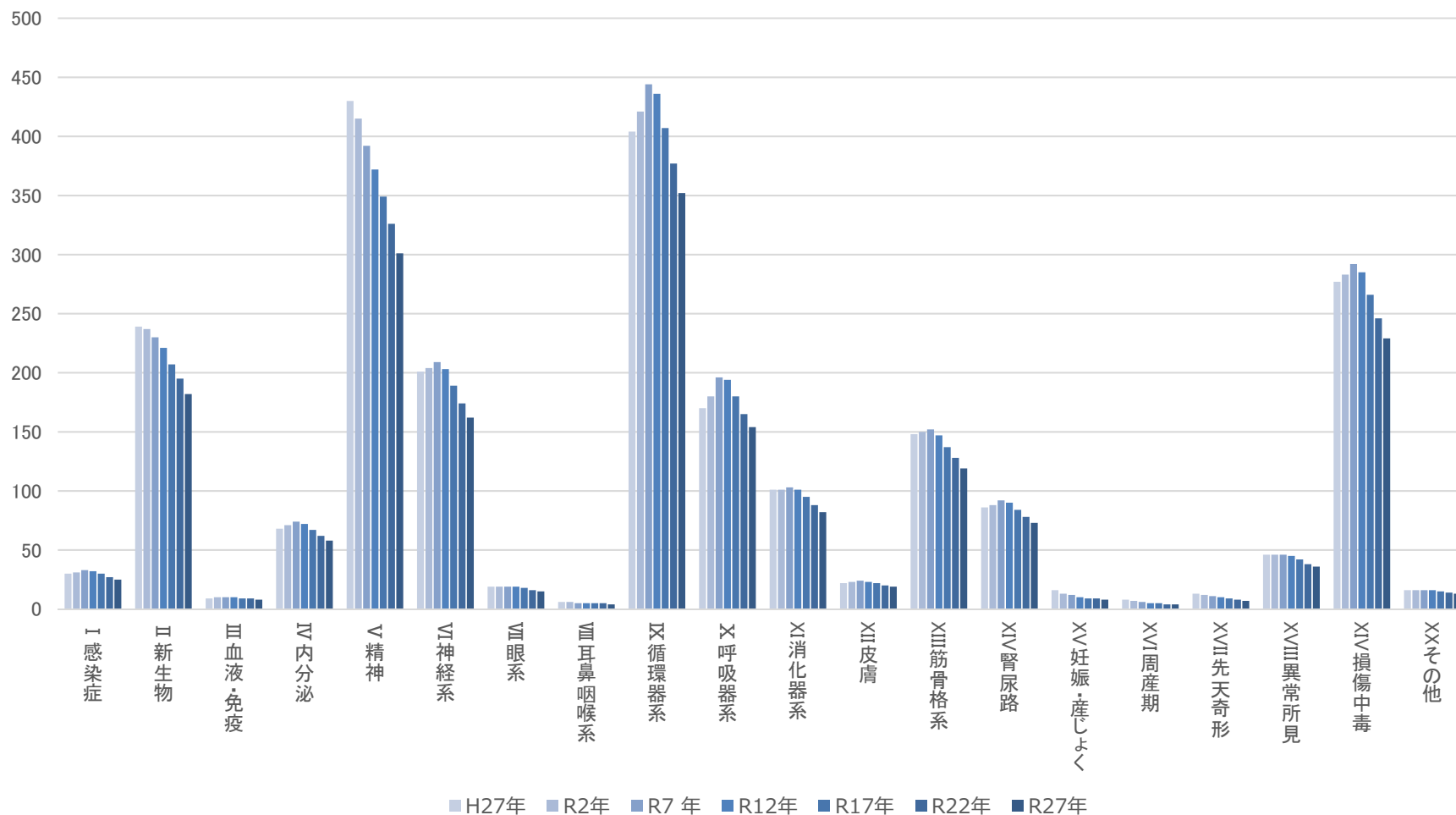
傷病大分類	H27年(2015)	R2年(2020)	R7年(2025)	R12年(2030)	R17年(2035)	R22年(2040)	R27年(2045)
I 感染症	30	31	33	32	30	27	25
II 新生物	239	237	230	221	207	195	182
III 血液・免疫	9	10	10	10	9	9	8
IV 内分泌	68	71	74	72	67	62	58
V 精神	430	415	392	372	349	326	301
VI 神経系	201	204	209	203	189	174	162
VII 眼系	19	19	19	19	18	16	15
VIII 耳鼻咽喉系	6	6	5	5	5	5	4
IX 循環器系	404	421	444	436	407	377	352
X 呼吸器系	170	180	196	194	180	165	154
XI 消化器系	101	101	103	101	95	88	82
XII 皮膚	22	23	24	23	22	20	19
XIII 筋骨格系	148	150	152	147	137	128	119
XIV 腎尿路	86	88	92	90	84	78	73
XV 妊娠・産じょく	16	13	12	10	9	9	8
XVI 周産期	8	7	6	5	5	4	4
XVII 先天奇形	13	12	11	10	9	8	7
XVIII 異常所見	46	46	46	45	42	38	36
XIX 損傷中毒	277	283	292	285	266	246	229
XXI その他	16	16	16	16	15	14	13
<b>総数</b>	<b>2,309</b>	<b>2,332</b>	<b>2,367</b>	<b>2,296</b>	<b>2,143</b>	<b>1,991</b>	<b>1,851</b>

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、厚生労働省「2017年度患者調査」を参考に作成

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 3) 患者数の推計

### ○入院患者数推計における主な疾患別の内訳（人/日）



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、厚生労働省「2017年度患者調査」を参考に作成

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 【参考】県立今治病院における患者数の推計

○今治圏域の推計入院患者数を基に、R元（2019）年の今治病院の実績をあてはめた主な疾患別の患者数推計（人/日）

総数：R7年以降減少。（R27年は対R7年比で22.6%減）

新生物、妊娠産じょく：顕著な減少傾向。（R27年は対R元年比で23.4～43.6%減）

	傷病大分類	R元 (2019)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)
I	感染症	2.6	2.6	2.7	2.7	2.5	2.3	2.1
II	新生物	25.6	25.5	24.8	23.8	22.3	21	19.6
III	血液・免疫	2.2	2.2	2.3	2.3	2.2	2	1.9
IV	内分泌	5.1	5.1	5.4	5.2	4.9	4.5	4.2
V	精神	-	-	-	-	-	-	-
VI	神経系	4.1	4.2	4.3	4.1	3.8	3.6	3.3
VII	眼系	0	0	0	0	0	0	0
VIII	耳鼻咽喉系	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4
IX	循環器系	29.3	29.6	31.2	30.6	28.6	26.5	24.8
X	呼吸器系	13.8	13.9	15.1	15	13.9	12.8	11.9
XI	消化器系	15.7	15.7	16	15.7	14.7	13.6	12.6
XII	皮膚	2.3	2.3	2.4	2.3	2.2	2	1.9
XIII	筋骨格系	18.2	18.3	18.5	17.9	16.7	15.6	14.5
XIV	腎尿路	6	6	6.3	6.1	5.7	5.3	5
XV	妊娠・産じょく	14.9	14.4	12.6	11.3	10.2	9.3	8.4
XVI	周産期	8.3	8.1	6.9	6.2	5.6	5	4.5
XVII	先天奇形	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2
XVIII	異常所見	1	1	1	1	0.9	0.8	0.8
XIX	損傷中毒	29.5	29.6	30.6	29.8	27.8	25.8	24
XXI	その他	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1
	<b>総数</b>	<b>179.8</b>	<b>179.8</b>	<b>181.2</b>	<b>175.1</b>	<b>163</b>	<b>151.2</b>	<b>140.3</b>

出典：県立今治病院DPCデータ、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、厚生労働省「2017年度患者調査」を参考に作成

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 3) 患者数の推計

○外来患者数推計における主な疾患別の内訳（人/日）

総数：減少傾向。（R27年是对H27年比で29.3%減）

感染症、耳鼻咽喉科、呼吸器系、皮膚、損傷中毒：顕著な減少傾向。  
（R27年是对H27年比で35.3～40.2%減）

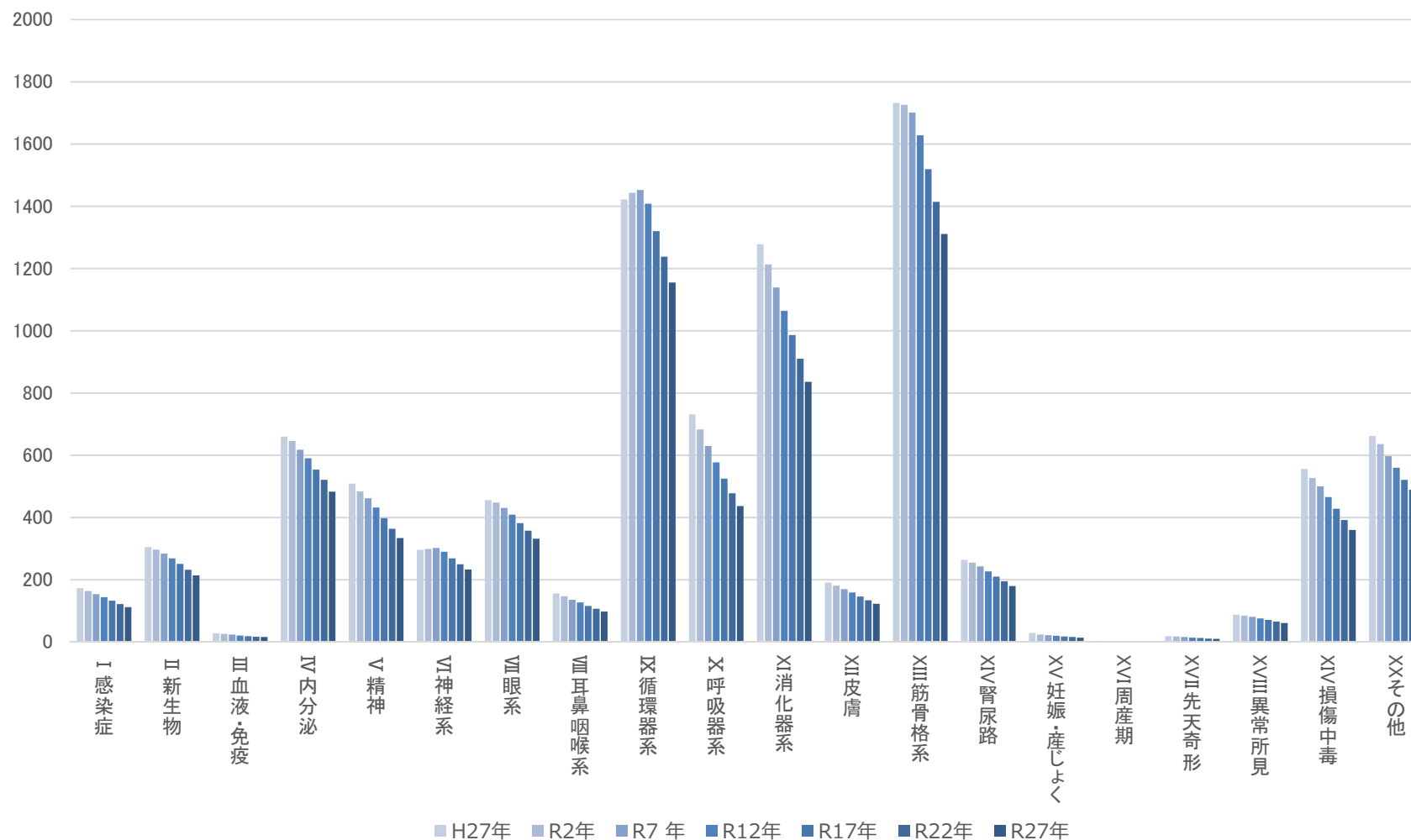
	傷病大分類	H27年(2015)	R2年(2020)	R7年(2025)	R12年(2030)	R17年(2035)	R22年(2040)	R27年(2045)
I	感染症	173	164	154	144	133	122	112
II	新生物	305	297	284	269	251	232	214
III	血液・免疫	28	26	24	21	19	17	16
IV	内分泌	660	646	618	590	554	521	483
V	精神	509	484	462	432	398	364	334
VI	神経系	296	299	302	290	269	250	233
VII	眼系	456	448	431	409	382	358	332
VIII	耳鼻咽喉系	156	147	136	127	116	107	98
IX	循環器系	1,422	1,443	1,452	1,408	1,320	1,238	1,155
X	呼吸器系	731	683	630	577	525	478	437
XI	消化器系	1,278	1,213	1,139	1,064	986	910	836
XII	皮膚	191	181	170	159	146	134	123
XIII	筋骨格系	1,732	1,726	1,701	1,628	1,519	1,414	1,311
XIV	腎尿路	264	255	243	227	210	195	180
XV	妊娠・産じょく	29	24	22	20	18	16	14
XVI	周産期	4	3	3	3	2	2	2
XVII	先天奇形	19	18	16	14	13	11	10
XVIII	異常所見	88	85	81	76	71	66	61
XIX	損傷中毒	556	527	500	466	428	392	360
XXI	その他	662	636	597	560	521	489	452
	<b>総数</b>	<b>9,559</b>	<b>9,306</b>	<b>8,966</b>	<b>8,481</b>	<b>7,881</b>	<b>7,316</b>	<b>6,762</b>

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、厚生労働省「2017年度患者調査」を参考に作成

# 1 今治圏域の医療需給の状況

## 3) 患者数の推計

○外来患者数推計における主な疾患別の内訳（人/日）



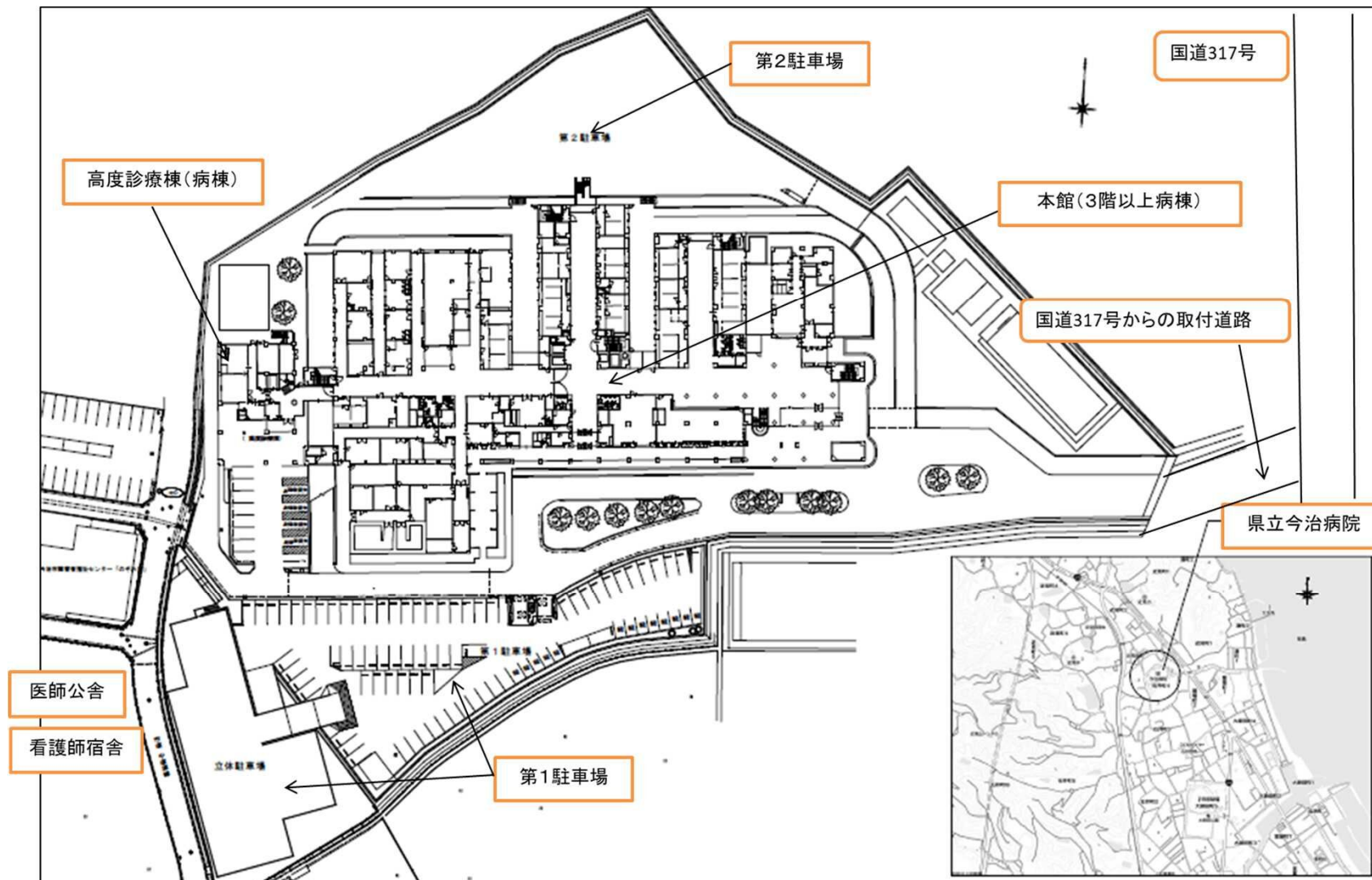
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、厚生労働省「2017年度患者調査」を参考に作成



## 2 県立今治病院の現状

### 1) 現病院の概況

- 築後年数40年（昭和58年新築）※耐用年数39年
- 許可病床数320床（一般病床270床、精神病床50床）
- 稼働病床数238床（一般病床238床、精神病床は平成22年4月から休止中）



## 2 県立今治病院の現状

### 1) 現病院の概況

#### 〔診療科〕23科

内科、呼吸器内科（※）、心療内科（※）、外科、心臓血管外科（※）、整形外科、脳神経外科、精神科（※）、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科（※）、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科（※）、放射線科、麻酔科、脳神経内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、消化器外科、糖尿病・内分泌内科

※は常勤医師不在

#### 〔医師数（正規職員）〕43名

内科（12）、外科（5）、整形外科（3）、脳神経外科（2）、小児科（6）、皮膚科（1）、泌尿器科（2）、産婦人科（5）、耳鼻咽喉科（2）、放射線科（2）、麻酔科（3）

時 点	R元.5.1	R2.5.1	R3.5.1	R4.5.1	R5.5.1
医師数	38名	34名	37名	38名	43名

#### 〔看護師数（正規職員）〕201名

時 点	R元.5.1	R2.5.1	R3.5.1	R4.5.1	R5.5.1
看護師数	204名	197名	197名	200名	201名

## 2 県立今治病院の現状

### 2) 現病院の主な機能・役割

#### ○ 5 事業に対する機能・役割

事業名	機能・役割
①救急医療	<ul style="list-style-type: none"><li>• 病院群輪番制に参加（8病院の中核）</li><li>➤ 月に4回、輪番当番として二次救急対応</li></ul>
②災害医療	<ul style="list-style-type: none"><li>• 圏域内唯一の災害拠点病院</li><li>• 愛媛県DMAT指定病院</li><li>➤ 災害救護、医療に主導的役割（院内体制整備、訓練実施）</li><li>※ ヘリポートとして約1キロ離れた今治市営球場を利用</li></ul>
③周産期医療	<ul style="list-style-type: none"><li>• 圏域内唯一の地域周産期母子医療センター（NICU3床）</li><li>• 一般不妊治療実施</li><li>➤ 産婦人科医（R5.5月時点：常勤5名）及び小児科医が対応</li></ul>
④小児医療	<ul style="list-style-type: none"><li>• 小児救急で夜間・休日の診療を実施（圏域内7施設）</li><li>• 二次救急輪番病院の後方支援</li><li>➤ 小児科医（R5.5月時点：常勤6名）が対応</li></ul>
⑤へき地医療 （島嶼部の医療支援）	<ul style="list-style-type: none"><li>• 圏域内唯一のへき地医療拠点病院</li><li>➤ 島嶼部医療を支える役割を担う</li></ul>

## 2 県立今治病院の現状

### 2) 現病院の主な機能・役割

#### ○ 5 疾病に対する機能・役割

疾病名	機能・役割
①がん	<ul style="list-style-type: none"><li>• 外来化学療法等を実施</li><li>➤ 圏域内における患者の4分の1程度をカバー</li></ul>
②脳卒中	<ul style="list-style-type: none"><li>• 超急性期血栓溶解療法（t-PA静脈療法）実施</li><li>➤ 急性期脳梗塞に対する救急輪番システム（t-PAホットライン：圏域内3施設）を担う</li><li>• 脳血管疾患に対しては、地域の医療機関からの紹介や救急搬送患者を受け入れ</li><li>➤ 地域で中心的役割</li></ul>
③心筋梗塞等の心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"><li>• 心臓カテーテル法による諸検査を24時間実施</li><li>• 上記は地域の医療機関からの紹介患者も受け入れ（時間外含む）</li><li>• IABP法（大動脈バルーンパンピング法）実施</li><li>➤ ACS（急性期冠症候群）ネットワークの組織等、地域で中心的役割</li></ul>
④糖尿病	<ul style="list-style-type: none"><li>• 予防医療</li><li>• 合併症に対する継続的な管理及び指導</li><li>• 血管・腹膜透析</li></ul>
⑤精神疾患	<ul style="list-style-type: none"><li>• 診療委託にて、急性期患者で認知症等の精神疾患を有する患者に対応</li></ul> <p>※精神病床は休床</p>

## 2 県立今治病院の現状

### 3) 患者数の推移

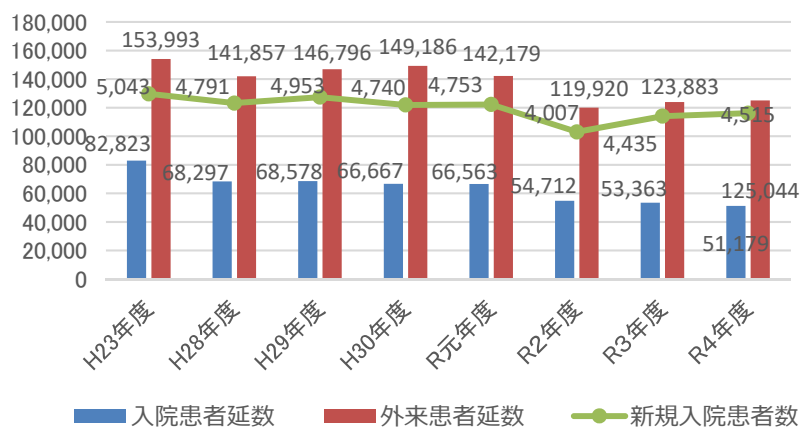
延入院患者数は、H23年度と比べると、H28年度は17.5%減。  
 さらに、R2年度以降は新型コロナの影響で大幅減。ただし、新規入院患者数は、H23年度と比べると、H28年度が5.0%減、R4年度でも10.5%減にとどまる。（平均在院日数が大幅に短縮）

(延べ患者数 人間ドック・検診を含む 単位：人/1日あたり)

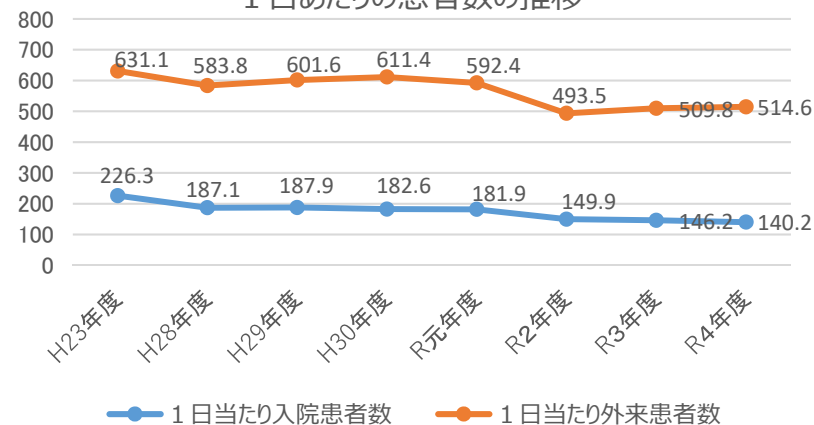
区分	H23年度 (2011)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)
延入院患者数	82,823	68,297	68,578	66,667	66,563	54,712	53,363	51,179
(参考：1日当たり 入院患者数)	226.3	187.1	187.9	182.7	181.9	149.9	146.2	140.2
(参考：新規入院 患者数)	5,043	4,791	4,953	4,740	4,753	4,007	4,435	4,515
平均在院日数	14.83	13.28	12.15	12.51	11.88	11.55	10.52	10.05
延外来患者数	153,993	141,857	146,796	149,186	142,179	119,920	123,883	125,044
(参考：1日当たり 外来患者数)	631.1	583.8	601.6	611.4	592.4	493.5	509.8	514.6

※人間ドックはコロナ対応のため、R2・3年度は休止。

県立今治病院における患者数の推移



1日あたりの患者数の推移



## 2 県立今治病院の現状

### 4) 経営状況

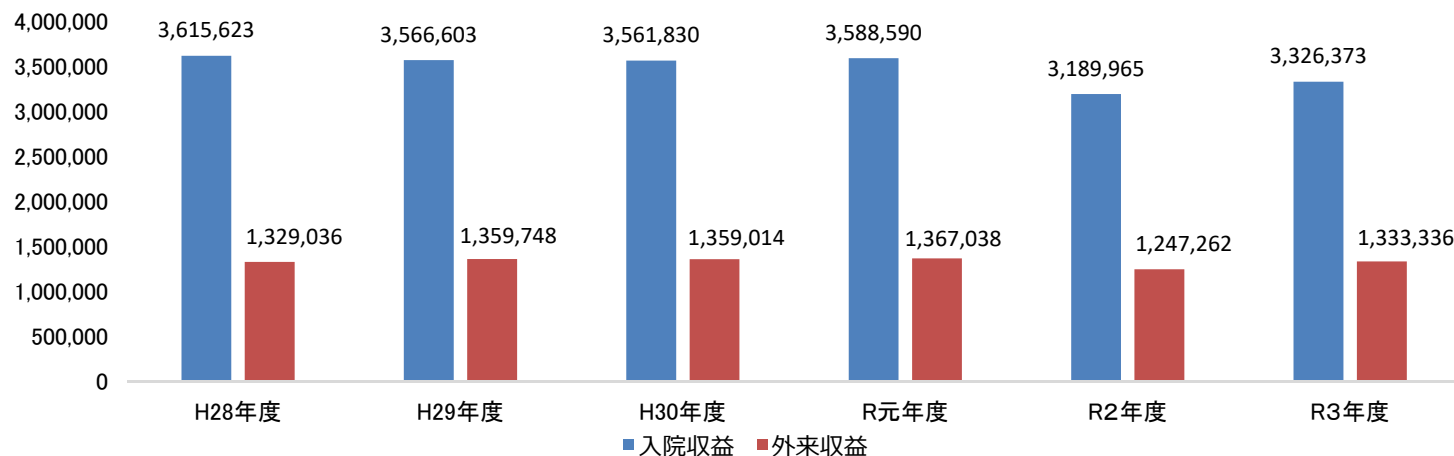
#### ○ 経常収支の推移

H30年度以降、厳しい状況が続く（コロナ前から赤字）。R2年度以降は、新型コロナの影響で入院収益が大幅に減少。

(税抜き 単位：千円)

区分	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)
収益	5,894,354	5,775,773	5,733,379	5,799,130	5,351,437	5,858,494
うち 入院収益	3,615,623	3,566,603	3,561,830	3,588,590	3,189,965	3,326,343
うち 外来収益	1,329,036	1,359,748	1,359,014	1,367,038	1,247,262	1,332,626
うち 一般会計負担金	327,222	360,315	352,460	379,469	524,121 <small>(空床補償87,256)</small>	792,842 <small>(空床補償388,875)</small>
費用	5,832,706	5,743,496	5,916,239	6,006,639	5,946,932	6,067,304
経常収支	61,648	32,277	△182,860	△207,509	△595,495	△208,810

県立今治病院における入院収益、外来収益の推移



## 2 県立今治病院の現状

### 4) 経営状況

#### ○診療単価の推移

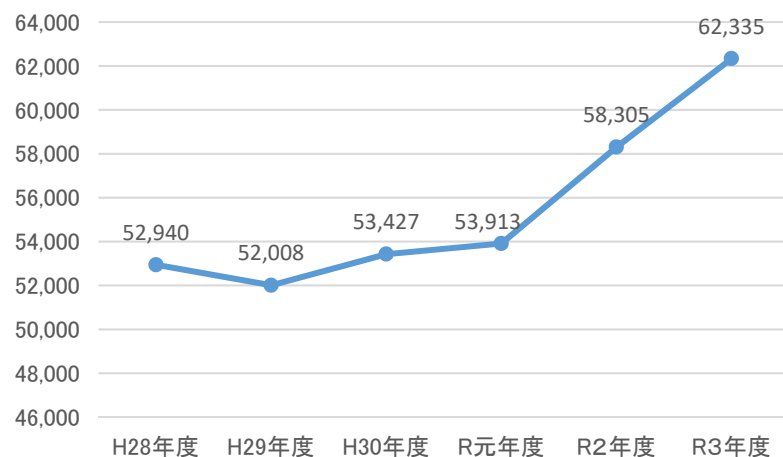
入院：H29年度まで減少、H30年度以降増加  
(R3年度は対H29年度比で19.9%増)

外来：H30年度まで減少、令和元年度以降増加  
(R3年度は対H30年度比で18.6%増)

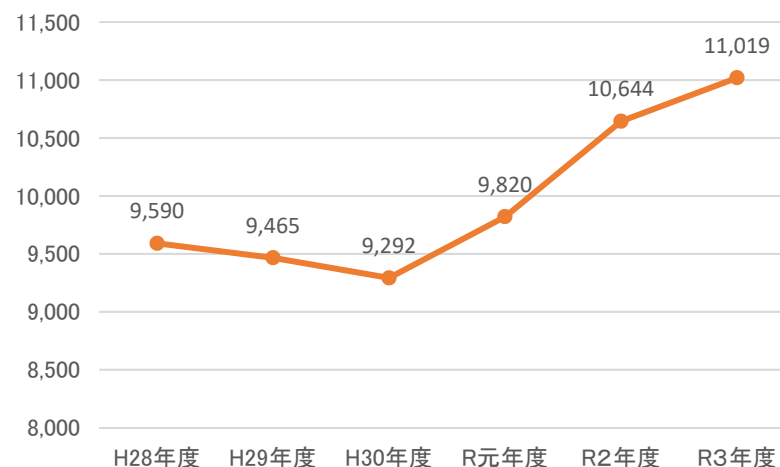
(税抜き 単位：円)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
入院	52,940	52,008	53,427	53,913	58,305	62,335
外来	9,590	9,465	9,292	9,820	10,644	11,019

県立今治病院における  
入院単価の推移



県立今治病院における  
外来単価の推移



### 【調査方法】

時 期：令和3年7月～8月

調査方法：医療機関を訪問し直接インタビュー（17医療機関）

訪 問 者：県立今治病院看護部長、地域連携看護長、  
コンサル（NPO法人病院経営支援機構）代表者

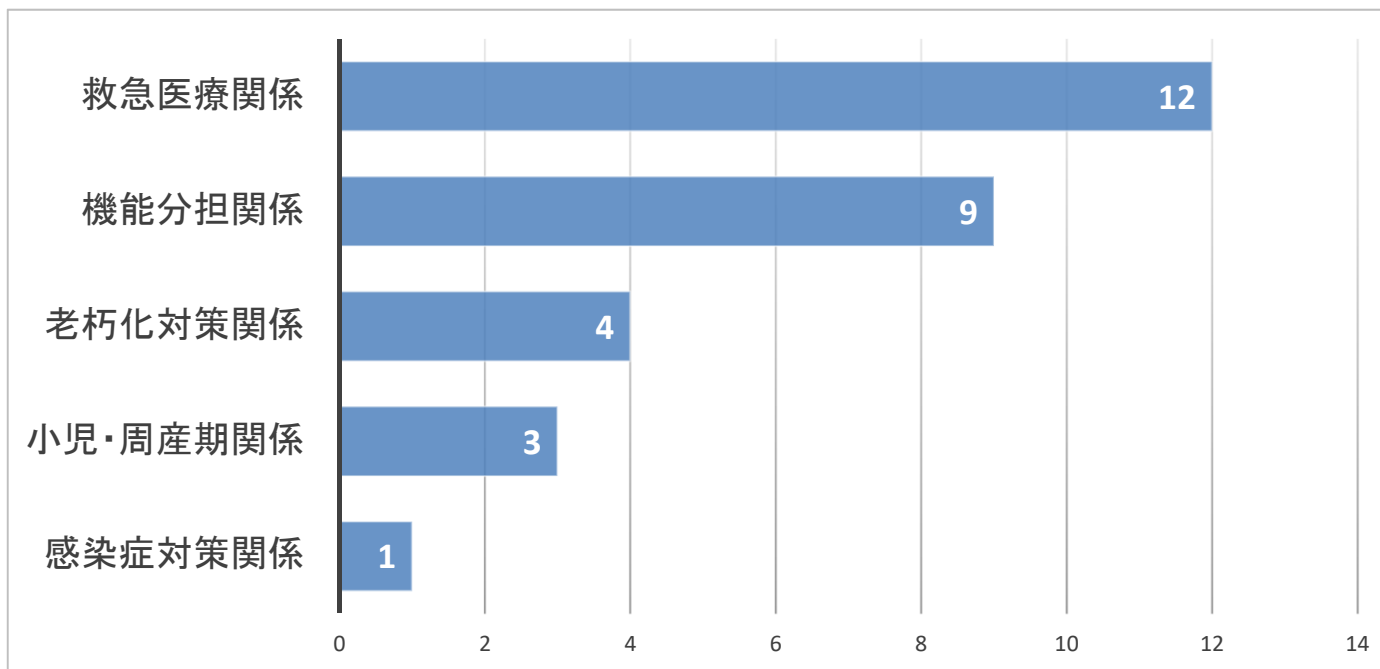
対 応 者：院長・事務長・看護師長・地域連携責任者 等

趣 旨：地域連携強化を目的に県立今治病院に求める機能  
や対応、将来のあり方等について聞き取りを行った。



## 参考：医療機関からの声(主な意見)

項目・意見等があった医療機関数  
(全17医療機関)



## 参考：医療機関からの声(主な意見)

### 1) 救急医療関係

- ・救急体制の充実を図って頂きたい。救急輪番の引き受け回数を増やしてほしい。
- ・救急医療の充実。島嶼部も入っている地域性を考えると救急医療の必要性は高い。
- ・今の機能をしっかり維持して頂きたい。
- ・救急医療をしっかりと担って頂きたい。今、循環器がしっかりして頂いているのが有難い。今後、大動脈解離などの疾患が増える。心臓をしっかりと診られる病院が必要。

### 2) 機能分担関係

- ・急性期の医療をしっかりと担い、回復期・維持期の患者を送ってほしい。
- ・外来は減らし、入院患者中心へ。
- ・重症患者をしっかりと診て頂きたい。
- ・急性期治療を終えたら、患者を後方病院へ送ってほしい。
- ・心疾患、脳疾患はネットワークの病院で輪番で回している。そういう事情も含めて急性期医療を担ってほしい。

### 3) 小児・周産期関係

- ・小児科と産婦人科はこれまで通り担って頂きたい。死守してほしい。
- ・小児と母子を守って下さっているのは有難い。

### 4) 感染症関係

- ・感染症においても地域の中核を担ってほしい。

### 5) その他

- ・地域になくってはならない病院であり、頑張っている病院と評価している。
- ・何かあった時に、いろいろと相談できる病院であってほしい。

#### ○第7次愛媛県地域保健医療計画

- ・県立4病院は、民間の医療機関では対応が困難な救急医療、災害医療やへき地医療支援等、政策的に実施すべき医療の分野において積極的な役割を担うことが期待される。

#### ○第2次愛媛県立病院中期経営戦略

##### 【県立病院の基本的な方向性】

- ①政策的医療の強化
- ②地域医療機関等との連携強化と役割分担
- ③医師及び看護師等の確保・人材育成機能の強化 等

##### 【今治病院の目指すべき病院像】

地域周産期母子医療センターを併設し、二次救急、周産期、小児の救急医療、脳血管疾患等の急性期医療や災害医療、感染症医療等を提供する今治圏域の中核病院

## 第1回県立今治病院老朽化対策基本計画策定委員会における委員の主な意見

- 今治圏域は中核病院が県立今治病院と別の公的病院の2つしかなく、中小規模の民間病院が多い特殊な地域である。10年後には中小規模病院は後継者や医師、看護師不足等から存続出来ない病院も多く、そうした病院の患者は2つの公的病院で受入れカバーしてほしい。入院患者数、外来患者数ともに減少していく予測であるが、今治圏域の総患者数は減少しても2つの公的病院の患者数は減少しないと考えている。今後の医療供給体制の見通しも踏まえた患者予測が必要ではないか。
- 今治圏域内の各医療機関の役割分担も非常に重要であると考えている。県立今治病院のあり方の検討が今治圏域の医療機関の役割分担について議論する良いきっかけになってほしい。
- 二次救急輪番病院が一次救急も兼務し対応している今治圏域の救急体制は、二次救急輪番病院の負担が重い。一次救急だけを担う急患センター的なものを設置し役割分担すべきではないか。
- 一次救急と二次救急を別々の輪番とすれば良いと考えるが、一次救急だけを担う医療機関は収入的に厳しいので、市からの補助や診療時間を準夜帯（夜の12時まで）に限るといった工夫が必要である。
- 診療規模の検討にあたっては、医療需要等とは別にマンパワーの確保という観点からも検討が必要である。
- 看護師やコメディカル（薬剤師等の他の医療職）の確保が非常に難しいと考えている。
- 全ての疾患を今治圏域内で完結する必要はなく、松山圏域との連携も重要である。
- 県立今治病院は二次救急輪番対応と他の輪番病院のバックアップを行い、三次救急は松山圏域の医療機関にお願いするべきである。
- 小児・周産期機能を死守してほしいという今治圏域内の医療機関の強い要望は理解できる。
- 小児・周産期機能は非常に重要であるが、一方で出生数は大幅に減少しており、現在の分娩数に見合った適正規模とすることが重要。
- 今治圏域内の救急機能の維持が最も大切であると考えている。県立今治病院には不採算事業であるが、5事業（救急・災害・へき地・周産期・小児）や感染症対応について引き続き担っていただきたい。